

# 一般社団法人 日本神経精神薬理学会 第79回(拡大) 理事会議事録

日時：2022年4月23日(土) 13:00~16:30

場所：東京都千代田区一ツ橋二丁目4番4号一ツ橋別館4階会議室を開催場所とする Web 会議

出席者(理事)：大隅典子、池田和隆、糸川昌成、尾崎紀夫、喜田聡、北市清幸、久住一郎、新田淳美、  
橋本謙二、橋本均、橋本亮太、服部信孝、古屋敷智之、宮川剛

出席者(監事)：曾良一郎

出席者(委員長)：井上猛、中込和幸、成田年、森尾保徳、山末英典、吉尾隆

出席者(ワザバ-)：菊地哲朗

欠席者(理事)：岩田仲生、山田清文、渡邊衡一郎

欠席者(委員長)：内田裕之

議長：大隅典子

本理事会は Web 会議システム (Zoom) を利用して行う旨を述べ、双方が画像、音声を確認したところ異常なく、上記のとおり理事の過半数の出席があり、本会議は有効に成立した。

※13:00~13:15

JSNP Excellent Presentation Award for AsCNP2021 オンライン授賞式の開催

議案：

前回(第78回)理事会議事録の確認がなされ、異議なく承認された。

## I. 審議事項

### 1. 新入会希望者承認の件(総務委員会)

3名から入会希望があり、全員が承認された。

### 2. データシェアリングの実装の件(トランスレーショナル・メディカル・サイエンス委員会)

精神・神経データシェアリング推進組合設立準備委員会を Translational Medical Science (TMS)委員会の傘下に設置しており、Japan Useful Medication Program for Schizophrenia (JUMPs) 研究会より、データ保管を本学会に一任し役立てて欲しいとの提案を受け、JUMPs のデータの利活用を皮切りに、2022年より臨床試験データ集積活動を行う検討を進めている。JUMPs データの受入れに関する課題として、①体制の整備(データシェアリング委員会とデータ提供審査委員会の設立)、②受け入れの整備(受け入れデータ対象範囲、倫理審査)、③保管体制の整備(契約委託先)、④利活用体制の整備(追加解析、データ提供範囲)、⑤利活用事例の提示(利用申請手順方法、結果公表)が挙げられ、それぞれについて説明がなされた。費用は、東北大学倫理審査費用(30万円程度)、NCNP データ保管料(3万円程度)、事務費、謝礼金に留め、精神・神経 DS 推進組合設立準備委員会の設立準備金(資産の移転)にて賄う予定である旨、規約や契約書の公認会計士レビュー費(10万円程度)は学会負担とすることが承認された。

### 3. PMDA からの「遅発性ジスキネジアに関する診療ガイドライン」作成の件(曾良先生)

精神科領域以外にも該当し、適正使用を促すためのガイドラインを示す必要はある。作成期限は設けず(2年程度を目安)、本学会を中心とし、「遅発性ジスキネジアに関する診療ガイドライン」を進めることで、承認された。今後は、曾良先生を中心に PMDA と協議の上、慎重に進める。

### 4. 統合失調症薬物治療ガイドライン 2022 公表の件(統合失調症薬物治療ガイドラインタスクフォース)

JSCNP と合同にて、ガイドライン改訂作業を行い、3月末にてパブリックコメントが終了し、そのコメントの反映および Minds からの評価

を踏まえたガイドラインが完成し、公開の承認がされた。

## II. 報告事項

### 1. 年会報告

➤ 第 52 回年会準備状況報告（井上年会長）

ハイブリッドにて開催することが決定した。順調に準備連携が進んでおり、ランチョンセミナー（19 枠）とスポンサーシンポジウム（8 枠）の応募を締め切った。

＜今後のスケジュール＞

演題登録期間：5 月 18 日～7 月 6 日 / 参加登録：7 月 1 日～12 月 16 日

➤ 第 53 回年会準備状況報告（服部年会長）

他学会との合同開催は行わず、単独開催にて実施する。

日程：2023 年 9 月 7 日（木）～9 日（土） / 会場：東京ドームホテル / 大会長：服部信孝（順天堂大学医学部神経学講座 主任教授） / 事務局長：西川典子（順天堂大学医学部神経学講座 准教授） / 運営事務局：株式会社コンベンションリンクージ

### 2. 各委員会報告

➤ 執行委員会（大隅委員長）

活動報告がされた。

➤ 総務委員会（北市委員長）

- ・新入会希望者に関して、持ち回り理事会（5 回）にて、21 名、I - 1 の審議事項にて 3 名の承認依頼を行った（すべて承認）
- ・2022 年 4 月 18 日現在の会員動向について以下の通り報告がされた。

会員数 1,931 名

名誉会員 32 名

功労会員 59 名

評議員 317 名

一般会員 1,337 名

学生会員 175 名

法人会員 11 社

退会 41 名（内、23 名は 3 年以上会費未納者）

- ・3 年以上会費未納者(186 名)に対し、3 月上旬に学会事務局にて郵送/メール/HP 掲載/メルマガにて納入連絡を行い、5 月末までにご連絡がない場合は、定款に従い、自然退会とする。未納者リストを個人情報に配慮し、評議員へ公開予定である。

➤ 財務委員会（池田委員長）

- ・2022 年度収支予算書の中間報告がされた。
- ・田中公認会計士と 2022 年 4 月 1 日付けにて顧問契約を結んだ（メール審議にて承認）。

➤ 倫理委員会（尾崎委員長）

- ・個人情報保護法の改正に合わせて、4 月に生命：医学系指針に改正が行われたため、本学会の倫理指針およびプライバシーポリシーの改正を行う必要がある。

➤ 編集委員会（宮川委員長）

- ・NPPR の投稿出版状況（2021 年の総投稿数 102、採択率は 80%強、学会収入は 200 万円前後の見込み）、NPPR の HP 改定（JSCNP のロゴ等を追加）、日本アルコール・アディクション医学会（JMSAAS）との連携を行った（①NPPR で Virtual

Special Issue: Alcohol and Addiction を発行→APC 以外の費用ナシ、②NPPR を JMSAAS のアソシエートジャーナルとする)。

・TOP FACTOR 向上のための規定改訂 (①Code の availability について論文に記載する、②質と透明性向上のガイドラインに沿うことを encourage する (義務ではない)、③Preregistration についての記述を記載する (Preregistration を義務付けするのではない) ) を行い、その結果、神経科学関連ジャーナルの中でトップクラスの値となった (9 点⇒14 点、登録されている“neuro”とつく 60 のジャーナルの内、NPPR は 2 位) 。→優れた業績のため、NPPR の広報を積極的に行う。

・科研費の研究成果公開促進費に採択 (令和 4 年度～令和 8 年度までの 5 年間で 12,000 千円) された。

・インパクト・ファクター取得へ向けて、2021 年 3 月に Clarivate 社の Emerging Sources Citation Index に再録申請を行った。

➤ 国際学術委員会 (新田委員長)

・AsCNP2023 は 2023 年 9 月 22 日～24 日に西安にてハイブリッドにて開催予定である。CINP2022 は、2022 年 6 月 9 日～12 日に台湾にてハイブリッド (現地参加は国内参加者のみ) にて開催することが決定した。

➤ 広報委員会 (古屋敷委員長)

・HP/SNS、メルマガ配信を定期的に行っている。

・統合失調症薬物治療ガイドライン 6 件、社交不安症の診療ガイドライン 1 件の転載許諾依頼の承認を行った。外部からのガイドライン転載依頼に関して、ガイドラインの理解度や専門性から広報委員会のみでは判断が難しく、今後は、薬事委員会にコンサルティングを行う (各ガイドライン TF は COI の観点から対応不可) 。引き続き窓口は、広報委員会とする。

➤ 企画委員会 (喜田委員長)

・NPBPPP2020 の教育講座動画の会員向けオンデマンド配信を行っており、52 回年会の際も、8 講演のオンデマンド配信を計画している。今後も定期的に会員へアナウンスを行う。

・他学会との連携シンポジウムを実現するため、評議員を中心に他学会との連携の可能性について、アンケートの実施を検討している。

➤ 学術賞選考委員会 (糸川委員長、代：大隅理事長)

・JSNP Excellent Presentation Award for CINP2022 の応募状況報告があった。

➤ トランスレーショナル・メディカル・サイエンス委員会 (森尾委員長)

・評価バリエーション軽減検討を行い、施設で評価者が患者と対面の上 MADRS 評価をした場合と、遠隔地からの情報通信機器を介しての評価をした場合との一致度を検討する臨床研究を実施し、その結果、高一一致度が得られた。結果の一部を 4 月に UMIN で公開し、11 月の 4 学会合同年会で発表を行う予定である。

➤ 薬事委員会 (渡邊委員長)

報告事項無

➤ COI 委員会 (橋本謙二委員長)

報告事項無→学会でも COI 自己申告書の提出を行う。

➤ EGUIDE 委員会 (橋本亮太委員長)

・講習会は Web にて開催しているが、1 回のみ対面講習会を予定している。

・精神神経学会の精神医療奨励賞を受賞した。→6 月の精神神経学会大会に受賞講演を予定しているため、発表後に会員へ受賞報告を行う。

➤ 専門医制度委員会 (橋本亮太委員長)

・精神神経学会のサブスペシャリティとして承認がされ、2023 年度より開始予定である。

➤ 中枢薬専門薬剤師あり方検討ワーキンググループ（吉尾委員長）

報告事項無

➤ Nomenclature ワーキンググループ（内田委員長、代：大隅理事長）

報告資料が示された。

➤ 統合失調症薬物療法ガイドラインタスクフォース（中込委員長、橋本亮太委員）

・JSCNP と合同にて、ガイドライン改訂作業を行っており、3 月末にてパブリックコメントが終了し、そのコメントの反映および Minds から  
の評価を踏まえたガイドラインが委員会および本理事会にて承認された。引き続き、ガイドライン作成にあたり、COI 調査も十分に行う。

・委員向けの EGUIDE プロジェクトの講習資料改訂版が誤送信にてプロジェクト受講者が 3 時間閲覧可能な状態となった。その後、  
ドロップボックスの削除、口外しないよう依頼を行った。

<今後の予定>

プレスリリース 5 月 11 日（水）

記者会見 5 月 17 日（火）14 時～

公開 5 月 20 日（金）

出版 6 月中旬（精神神経学会に間に合うように）

シンポジウム 6 月 18 日（土） 統合失調症薬物治療ガイドライン 2022 の概説

➤ クロザピン対応タスクフォース（橋本亮太委員長）

・10 月に行った CPMS 基準のマイナーな規制緩和の改定要望について、1 月に対応した旨の回答が得られた（1 月下旬に学会 HP  
と会員へ周知済み）。診療報酬改定により、普及が進むと考えている。

➤ 会員交流促進タスクフォース（宮川委員長）

報告事項無

➤ 先端研究推進基盤構築タスクフォース（成田委員長）

・「研究活動推進のためのドライ解析研究の推奨」に関して、会員や企業を対象としたオンライン講習会を計画している。

➤ 児童思春期神経精神薬理タスクフォース委員会（山末委員長）

・報告事項無

➤ 不安症治療ガイドラインタスクフォース（井上委員長）

・社交不安症の診療ガイドラインが MINDS に掲載された。今後は、普及啓発を目指し、5 月の日本不安症学会、6 月の日本精  
神神経学会、11 月の BPCNP/PPPP2022 の年会にて「社交不安症診療ワークショップ」を開催する。

➤ 臨床神経薬理研究基盤構築タスクフォース（服部委員長）

・日本神経学術大会では精神科と脳神経内科のジョイント共催セミナー、精神科との合同シンポジウムを企画した。

・DLB 全国講演会 ザコラボレーションを大阪大学池田先生と立ち上げ、精神科と脳神経内科のジョイントにて定期的に開催する。

### Ⅲ. その他

➤ 日本学術会議について（尾崎先生、池田先生）

・神経倫理に関する意見表出を行うことが決定し、8 月にシンポジウムを開催する。COVID-19 等のパンデミック時の医療・医学・社  
会の在り方に関して意見表出も行う予定であり、registry に対する会が 5 月にオンラインにて開催する。

- ・脳とこころ分科会委員長が山脇成人先生から高橋良輔先生へ交代された。
- ・アディクション分科会では、アディクション研究センターを NCNP 内に設立するため、準備が進んでいる。
- ・2022 年を「持続可能な発展のための国際基礎科学年（IYBSSD）」(The International Year of Basic Sciences for Sustainable Development)とすることが決定され、7 月に学術フォーラムを開催する。

➤ 日本脳科学関連学会連合（池田先生、尾崎先生）

- ・将来構想委員会（脳科学作業部会）では、本年度にて革新脳と国際脳が終了するため、次年度の議論が進んでいる。
- ・産学連携諮問委員会では、連携法人会員を募り 26 法人が登録している。産学連携の在り方を検討し、政府へ提言予定である。

以上

令和 4 年 4 月 23 日

一般社団法人 日本神経精神薬理学会 理事会

議長 代表理事 大隅典子

出席理事 池田和隆

出席理事 尾崎紀夫

出席理事 喜多 聡

出席理事 北市清幸

出席理事 久住一郎

出席理事 新田淳美

出席理事 橋本謙二

出席理事 橋本 均

出席理事 橋本亮太

出席理事 服部信孝

出席理事 古屋敷智之

出席理事 宮川 剛